

2 たい肥の性質

(1) たい肥の品質

作物に家畜ふんたい肥を施用する場合は、その品質（特徴）を十分把握しておくことが重要である。たい肥の肥料成分含量や、肥効パターンなどは原料ふんの畜種、副資材の種類やたい肥化方式の違いによって大きく異なる。

このような家畜ふんたい肥の品質に関して備えるべき条件は原田により、表1のように整理されている。

即ち、たい肥の品質に関して備えるべき条件、言い換えれば良質なたい肥とは「取り扱い易い性状であること、土壌・作物にとって安全かつ有効であること」である。

表1 堆肥の品質に関して備えるべき条件（原田1985）

<p>A. 取り扱い易い性状であること</p> <ul style="list-style-type: none">①水分が適当である②臭気が強くない③病原菌・寄生虫卵などを含まない
<p>B. 土壌・作物にとって安全であること</p> <ul style="list-style-type: none">①施用後、急激な分解をしない②窒素飢餓を生じさせない③生育阻害物質を含まない④有害物質を含まない⑤塩類濃度が低い⑥植物病原菌等を含まない⑦雑草の種子を含まない
<p>C. 土壌・作物にとって有効であること</p> <ul style="list-style-type: none">①植物に養分を供給する②土壌の化学的性質を改善する③土壌の物理的性質を改善する④土壌中の生物活動を維持・増進する